

～ 市民とともに 栗東をよりよいまちに ～



市民参画と協働による まちづくり通信



No.73

平成 28 年 10 月 18 日発行

《問合せ》 自治振興課

TEL : 551 - 0290

(内線 : 3521)

FAX : 551 - 0432

平成 29 年度

「元気創造まちづくり事業公開」プレゼンテーション／ヒアリングを実施しました！

10 月 1 日（土）10 時から平成 29 年度実施の「元気創造まちづくり事業」公開プレゼンテーションをコミセン大宝東で行いました。今年は、市民団体 7 団体、地振協 3 団体、合計 10 団体の応募があり、限られた時間の中で、できるだけ審査員にわかりやすく伝えようと、プロジェクターを使ったり、時には歌などのパフォーマンスも交えながら、工夫を凝らした発表をされました。

結果は 10 月中に各団体にお知らせする予定です。



審査委員長講評（一部抜粋）

多くの団体が単に事業内容だけでなく、その背景や組織の目的に至るまで、大変丁寧に申請書をつくりこまれ、プレゼンテーションにおいても、限られた時間の中でコンパクトに分かりやすく伝えられていて大変良かったと思いました。

地域振興協議会コースでは、実行委員会をつくって継続的に取り組んでいこうとされる地振協が出てきたことは良かったですし、地振協だけではなく市民活動団体として、元気創造まちづくり事業や協働事業提案制度として活動する道が拓けたのではないかと思います。

また、すべてのコースにおいて、みなさんの活動やまちづくりへの姿勢が、地域にいろいろな形として残っていきそうところが大変嬉しく思いました。かまどベンチなど目に見えるものが残っていく、イベントを楽しみにする方が増えていく、事業実施に向けて交流することや話し合うこと自体が大切だという姿勢が残っていく、人材が地域に残っていく。単に起爆剤になるだけではなく、いろいろなものを地域に残そうと工夫をしてくださったことが、大変有難いと思います。

さらに予算について、もう少し予算規模を多くしては如何ですかと提案させていただいた団体もありましたが、予算を大きくすればするほど（会費などの自己資金が多く必要になり）継続性が危ぶまれるという側面があり、どの程度の活動規模で、どの程度の予算であれば自分たちの活動が続いていくのかを念頭において予算を組まれているのだと、みなさんのコメントを受けて考え直したところです。

また、過去の申請団体も含め、元気創造まちづくり事業に携わった市民活動団体が連携を始めているというご報告を耳にできたことは嬉しい動きだと思います。

今後も、自分たちの活動で終わることなく繋がっていけるよう連携を深めていって欲しいと思います。

以上、嬉しい報告が多かった反面、今回のプレゼンテーションを通じて、会員の高齢化など次代の担い手づくりという課題も見えてきました。

担い手を増やし、さらに活動を展開していくためには、熱意だけではなく、誰にでも分かりやすく丁寧に活動内容を説明することが不可欠ですが、そのためにはミッション、ビジョン、バリューを表現することが大切です。

本日のプレゼンテーションでは、主に「何をなすべきか」というミッションを報告いただきました。

ビジョンは、活動によって、どんな未来、どんな社会が待っているかという展望を指し、バリューはその活動をするにあたり、何を大事にするかを指しますが、活動で迷ったときに、大事にするべきことは何なのか、どんな展望を描いているのか、分かりやすい言葉をひとつ用意しておくときに行き詰った時の助けになるのではないかと思います。

最後に、数値目標でなくても構わないので、自分たちの事業をどのように評価するのか、振り返りの軸を事業実施前に持っていただき、目標を持って活動されるようお願いいたします。